



■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン：CASBEE横浜2017年版v.1.7

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西区中央一丁目計画新築工事	階数	地上10F
建設地	横浜市西区中央一丁目15番1 他4筆	構造	RC造
用途地域	商業地域 準防火	平均居住人員	410 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,670 時間/年(想定値)
建物用途	物販店・集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年3月 竣工	評価の実施日	2020年8月17日
敷地面積	609 m ²	作成者	山科 友作
建築面積	476 m ²	確認日	2020年8月28日
延床面積	3,838 m ²	確認者	山科 友作



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)
 ②建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)
 ③上記+②以外の: 92 (kg-CO₂/年・m²)
 ④上記+: 92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.3
 Q2 サービス性能: 3.1
 Q3 室外環境(敷地内): 1.7
 LR1 エネルギー: 3.9
 LR2 資源・マテリアル: 2.6
 LR3 敷地外環境: 3.0

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 地域の景観に配慮した色彩、高さとし、可能な限り道路等の公共空間との間に植栽を施し周辺からの見え方に配慮した計画とした。		
Q1 室内環境 ・二重壁によりD r 値50を目標値として設定。 ・F☆☆☆☆を床、壁、天井、天井裏の面積の合計70%以上の面積に採用。	Q2 サービス性能 ・住宅性能表示基準劣化対策等級2相当。 ・2~10階の階高を2950とし、ゆとりのある空間とした。	Q3 室外環境(敷地内) 建物の配置、形態、植栽などを周辺との調和に配慮した計画とした。
LR1 エネルギー 住宅性能表示基準断熱等性能等級3相当。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓に節水コマなどを取り付けることで、水資源保護に配慮した計画とした。	LR3 敷地外環境 ・ライフサイクルCO ₂ 排出率が参照値に対し80%。 ・広告照明を行わず、光害の抑制に配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



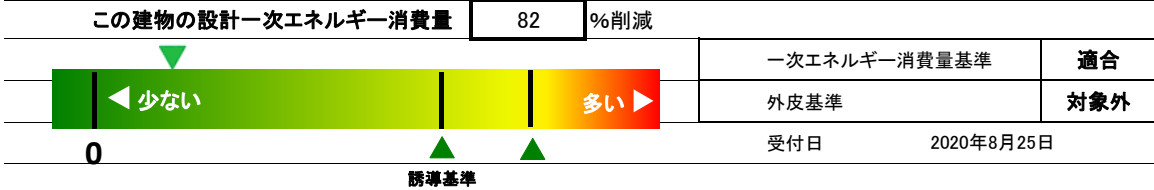
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)西区中央一丁目計画新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①住宅性能表示制度 断熱等性能等級における等級3を取得

③潜熱回収型給湯器エコジョーズを採用

※非住宅については設備一部未確定での評価

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰住宅性能表示制度 劣化対策等級における等級2相当

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 (仮称)西区中央一丁目計画新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 4

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 19 %削減

	一次エネルギー消費量基準	適合	
	外皮基準	-	
0	受付日	2020年8月25日	

誘導基準

- エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)
- ①住宅性能表示制度 断熱等性能等級における等級3を取得
 - ③潜熱回収型給湯器エコジョーズを採用
- ※非住宅については設備一部未確定での評価

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 2

- 室内環境対策 (⑤外皮性能)
- ◆断熱等性能等級 等級3 (相当)
- 健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)
- ⑥日本住宅性能表示基準「6-1ホルムアルデヒド対策(内装及び天井裏等)における等級3相当」
- その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)
- ◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 3

- 耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)
- ⑰住宅性能表示制度 劣化対策等級における等級2相当

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 2

- 室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
エネルギーマネジメントシステム導入	



スコアシート	実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	配慮項目	重点項目 ＜非住宅＞ ＜集合住宅＞	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							2.7
Q1 室内環境							3.3
1 音環境							3.0
1.1 騒音							3.0
1.2 遮音							3.0
1 開口部遮音性能							3.0
2 界壁遮音性能							3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0
1.3 吸音							3.0
2 温熱環境							3.0
2.1 室温制御							3.0
1 室温							3.0
2 外皮性能							3.0
3 ソーン別制御性							3.0
2.2 湿度制御							3.0
2.3 空調方式							3.0
3 光・視環境							2.1
3.1 昼光利用							1.8
1 昼光率							1.0
2 方位別開口							-
3 昼光利用設備							3.0
3.2 グレア対策							3.0
1 昼光制御							3.0
3.3 照度							3.0
3.4 照明制御							1.0
4 空気環境							3.5
4.1 発生源対策							4.0
1 化学汚染物質							4.0
4.2 換気							3.0
1 換気量							3.0
2 自然換気性能							3.0
3 取り入れ外気への配慮							3.0
4.3 運用管理							3.0
1 CO ₂ の監視							3.0
2 喫煙の制御							-
Q2 サービス性能							3.1
1 機能性							2.9
1.1 機能性・使いやすさ							3.0
1 広さ・収納性							3.0
2 高度情報通信設備対応							3.0
3 バリアフリー計画							3.0
1.2 心理性・快適性							2.9
1 広さ感・景観							1.0
2 リフレッシュスペース							2.0
3 内装計画							3.0
1.3 維持管理							3.0
1 維持管理に配慮した設計							3.0
2 維持管理用機能の確保							3.0
2 耐用性・信頼性							2.9
2.1 耐震・免震							3.0
1 耐震性							3.0
2 免震・制振性能							3.0
2.2 部品・部材の耐用年数							3.2
1 躯体材料の耐用年数							4.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔							2.0
2.4 信頼性							2.4
1 空調・換気設備							1.0
2 給排水・衛生設備							1.0
3 電気設備							3.0
4 機械・配管支持方法							3.0
5 通信・情報設備							4.0
3 対応性・更新性							3.0
3.1 空間のゆとり							3.0
1 階高のゆとり							3.0
2 空間の形状・自由さ							3.0
3.2 荷重のゆとり							3.0
3.3 設備の更新性							3.0
1 空調配管の更新性							3.0
2 給排水管の更新性							3.0
3 電気配線の更新性							3.0
4 通信配線の更新性							3.0
5 設備機器の更新性							3.0



CASBEE横浜2017年版v.1.7
 (仮称)西区中央一丁目計画新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-			1.7
1		生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-			1.0
2		まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-			2.0
3		地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-			2.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.9
1		建物外皮の熱負荷抑制		2.9	0.20	-	-			2.9
2		自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-			3.0
3		設備システムの高効率化		5.0	0.50	-	-			5.0
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-			3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			2.6
1		水資源保護		3.0	0.20	-	-			3.0
1.1		節水		3.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-			-
2		非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60	-	-			2.5
2.1		材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-			-
3		汚染物質含有材料の使用回避		2.5	0.20	-	-			2.5
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		2.3	0.70	-	-			-
	1	消火剤		1.0	0.33	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.0
1		地球温暖化への配慮		3.7	0.33	-	-			3.7
2		地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-			2.3
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-			-
3		周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-			3.1
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	0.50	-	-			-
	2	振動		-	-	-	-			-
	3	悪臭		3.0	0.50	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3		光害の抑制		3.7	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ		⑬知的生産性向上への取組		-	-			-
<住宅用途>										
健康と安心										
1		化学汚染物質の対策		健康・安心		⑥健康対策				5.0
2		適切な換気計画		健康・安心		⑥健康対策				3.0
3		結露・カビ対策		健康・安心		⑥健康対策				3.0
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心		⑦防犯対策				4.0